

# 発明手記

電気と発明家には切っても切れない関係がある。

電気と家も同様である。

では、その両者が共に電気を失ったら…

これは電気を失った発明家による電気を失った家を綴る記録である。

どうやら私は電気を失い、電気のない家ででの生活を強いられることとなつたらしい。

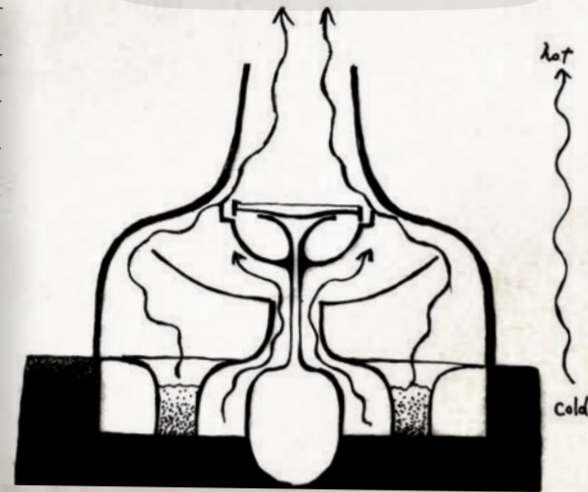
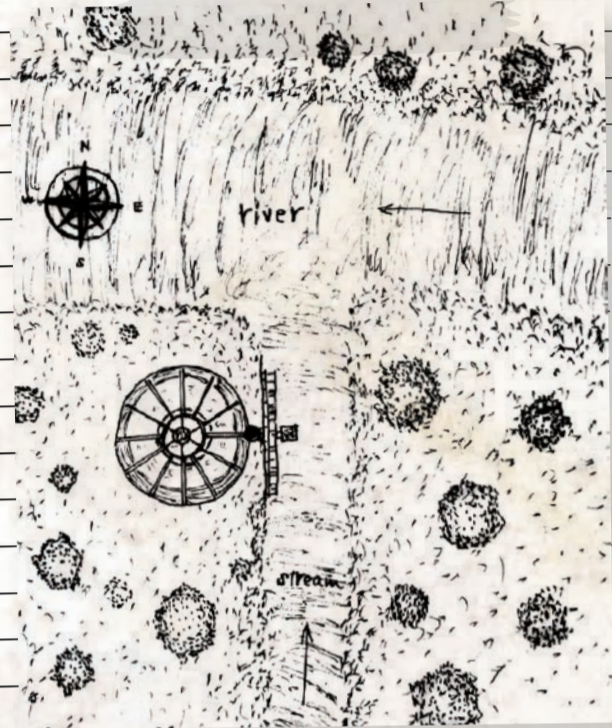
現在いくつかの問題を抱えている。

まずは水である。生活用水が確保できなくては生きてはいけなからう。

次に食料保存だ。冬はともかく夏は食料の保存がきかずに食料が安定に確保できない。

最後に気温だ。夏は蒸し焼けるように暑く、冬は凍るように寒い。

どうにか解決できないだろうか…

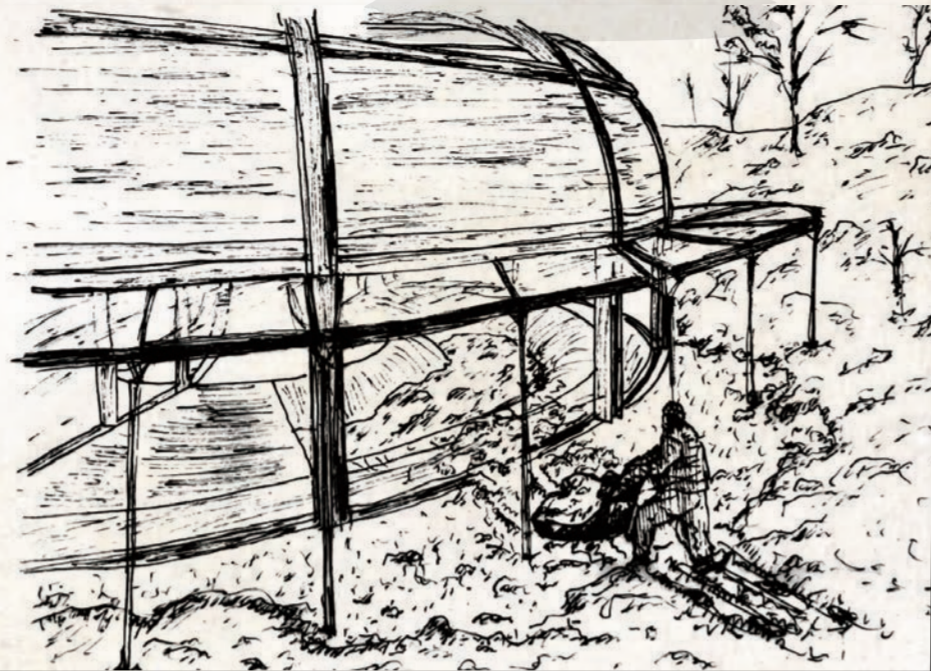


家をベルマウス型と呼ばれる形にしてみようと思う。

どうやらこの形は流体が流れる際の抵抗が最小限になるらしい。地中の温度は安定しているから一年を通して雪を貯蔵できるかもしれない。

空気は暖められたら上へと上昇するから空気に動きが生まれそう。これをうまく使えば食料の保存と夏の暑さを同時に解決できるかもしれない。

出ていった空気の新鮮な空気が誘引されるはずだ。



冬に降り積もる雪をどうにか利用できないものかと考え雪を貯蔵してみる事にした。

普通の倉庫では入れずらいので溝を掘りこんで落とすことにする。

床板は取り外せるから閉めることで雪を貯蔵する。

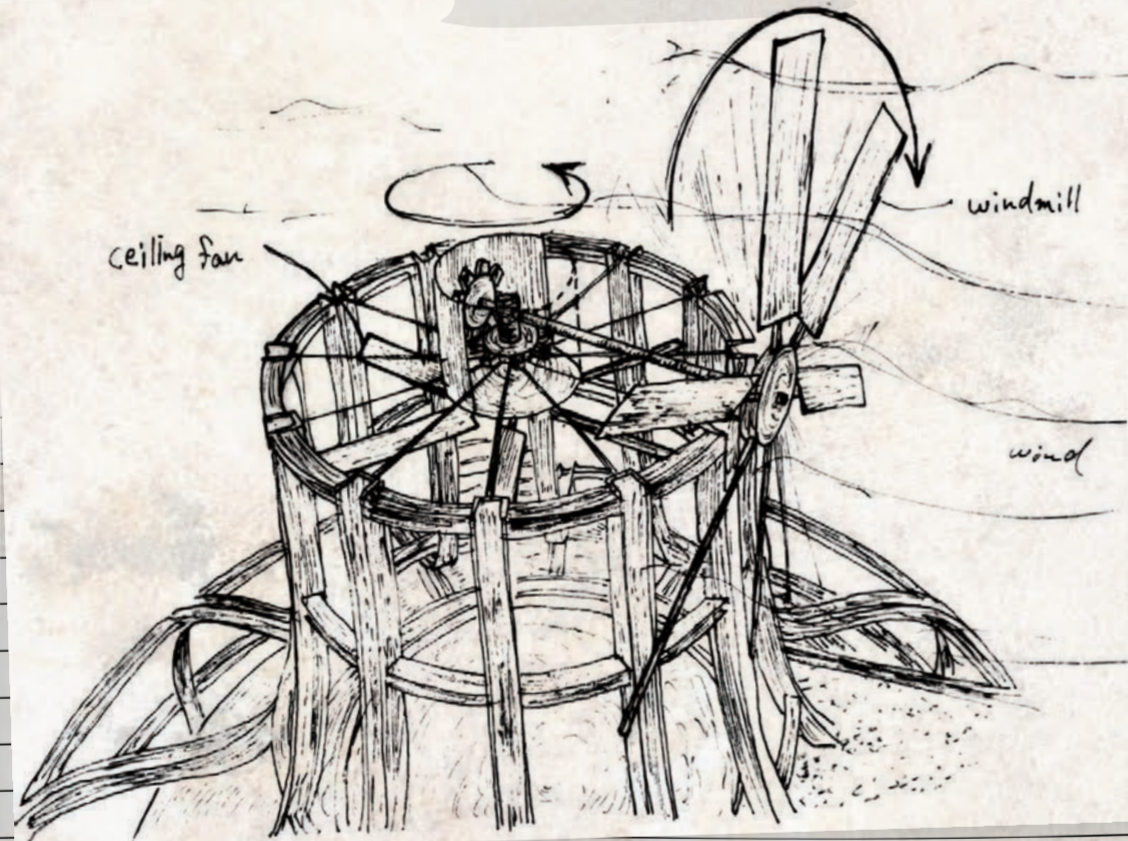
たどりついたこの土地で気づいた事を以下に挙げる。

冬にはあたりを覆うほどの多量の雪が降る。

東側には小川が流れ、北側の川に合流する。流れは緩やかだ。

敷地は北から南へと高くなる斜面となっている。

年中を通して東から西へと風が吹く。

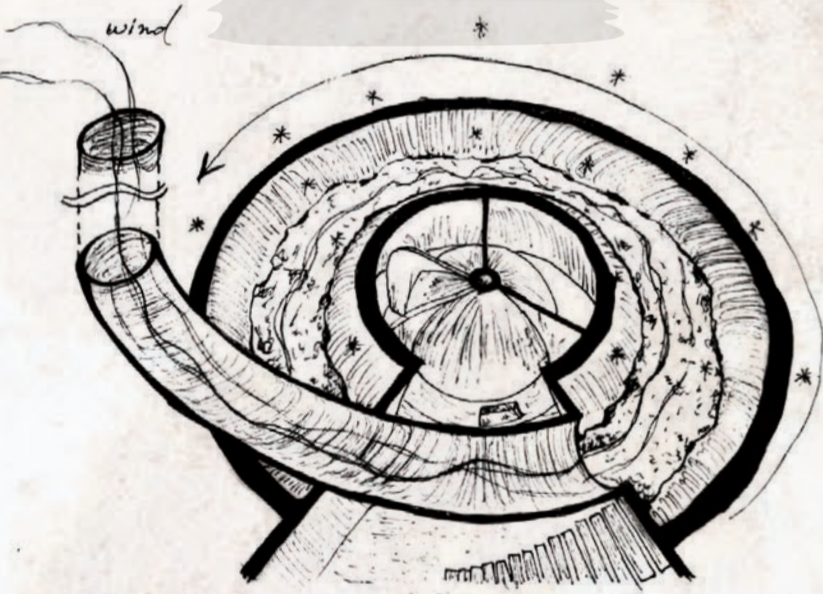


年中を通して東から西に向かって吹く風を利用してみたいこととした。

東向きに風車を向けて歯車でシーリングファンを回す機構だ。

暖められた空気が上に溜まるからこのファンで循環させることで冬も快適に過ごす作戦だ。

夏は屋根と歯車を外して暖気を排気することにする。

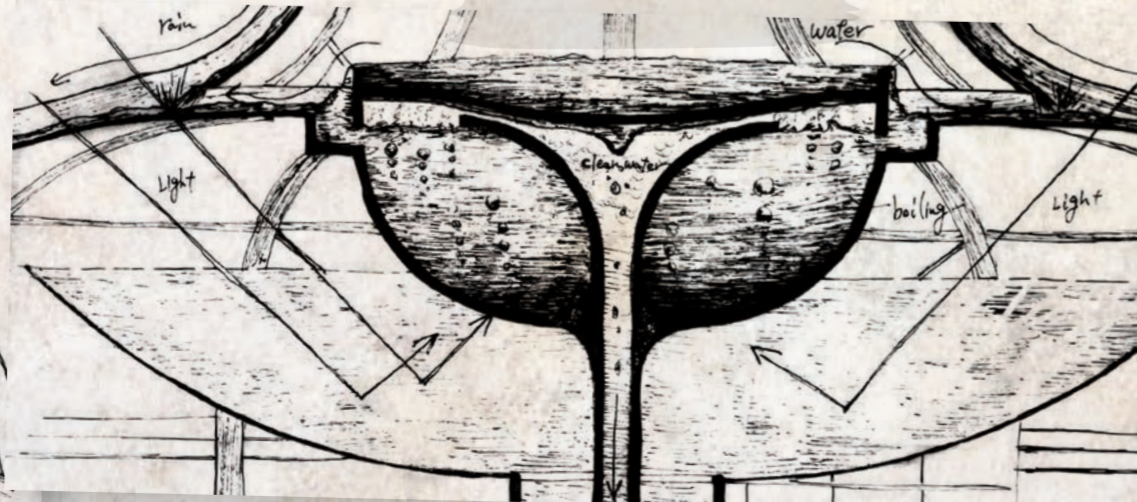


給気塔を通して誘引された風が雪を貯蔵する溝へと流れ込んでくる。

風は円に沿って周回しながら雪の冷気で冷やされる。

この冷やされた空気を冷蔵庫へと送り込んで食料を保存する。

屋内にも冷風を送り込み暑い夏を乗り切る。



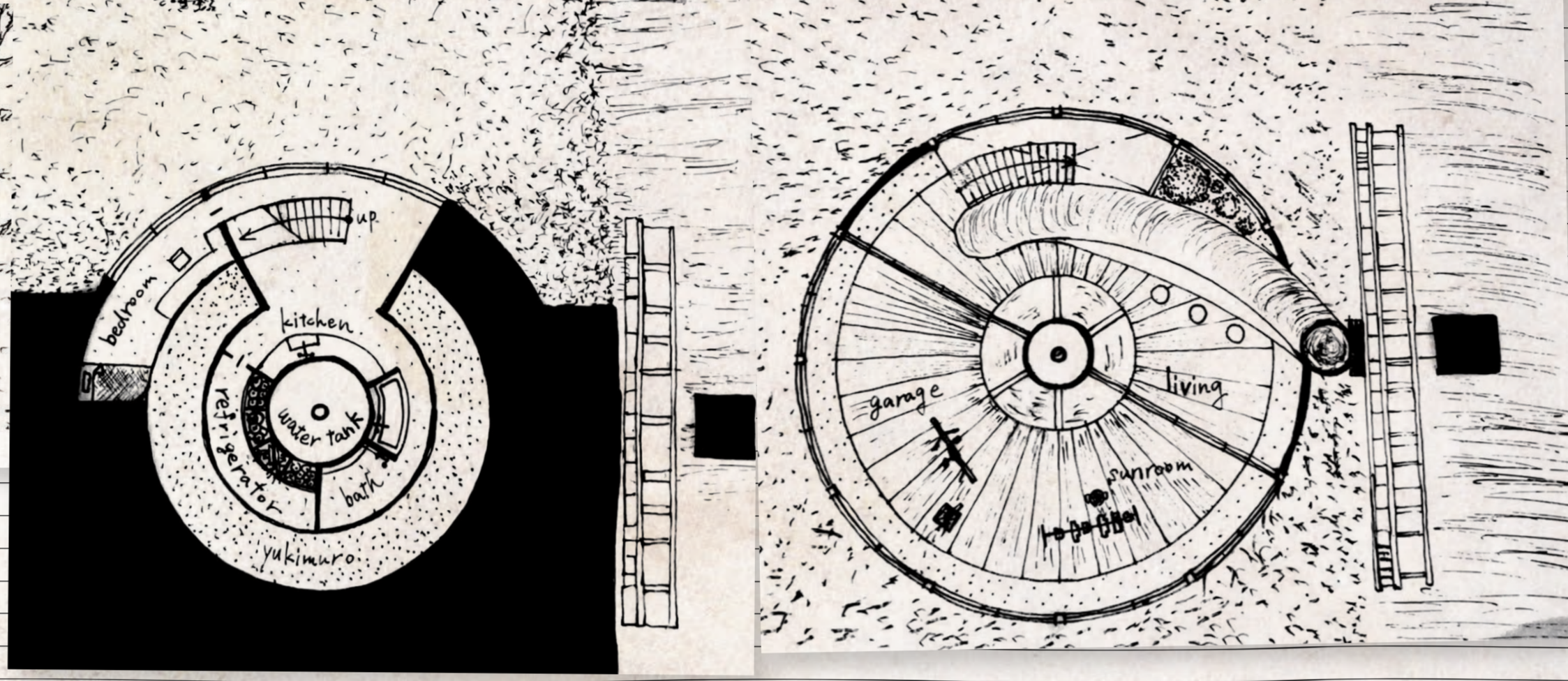
以前にソーラークッカーと呼ばれる日光を利用した調理機材を使用したことがあった。

持ち運べるサイズ程でも効率的に太陽光を集め水が沸騰するにまで至った。

その原理を利用してろ過された水を煮沸消毒してみようと思う。

水蒸気を上部に伝わせたまわっている水で水滴にして貯水槽へと落とす仕組みを考えた。

水が溢れないよう雨樋のように構造体を使い地上へと排水する。



地下は貯水槽を中心にキッチンやお風呂などの水回りと冷蔵庫を配した。

調理場とお風呂が隣だから同時に火を焚けるし煙突のように排煙されるから安心だ。

雪の貯蔵庫「雪室」が冷蔵庫や部屋内部に冷風を送る。

寝室は安定している地中にした。

斜面を利用して北側は地中ではなく外とつながっているから閉鎖感はない。

一階にはリビング、ガレージ、サンルームがある。

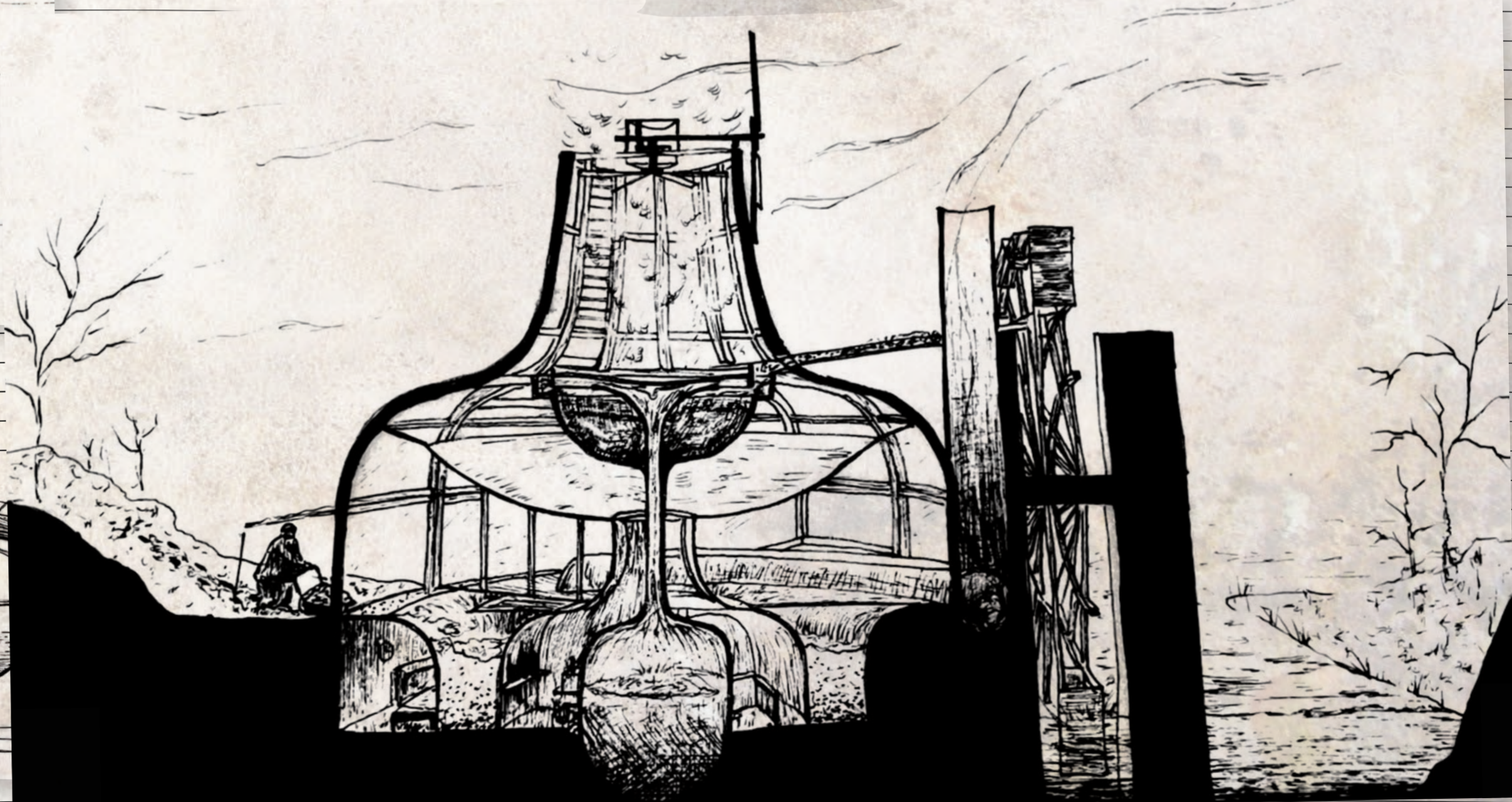
リビングでは給気管をそのままテーブルとして使っている。目の前に広がる自然を楽しめてとても気持ちがいい。

日当たりの良い南側は発明のためのスペースであるガレージと洗濯を干すサンルームがある。

晴れている日は暖かくていつの間にか昼寝してしまう。

床板を外すと冷風が出てくるから夏でも涼しい。

空気が温まると上昇排気、同時に新たな空気が誘引され自然と空気が循環する。



初めは多くの問題があったが発明の結集によって電気を使わない家が何とか完成した。

しかし、これからは私による電気を使わない家の発明は続いていこう。

電気を失った発明家も電気を失った家も案外捨てたもんじゃない。